

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201263		
法人名	北商株式会社		
事業所名	グループホーム ライフケア北倶楽部		
所在地	札幌市北区北28条西12丁目3-13		
自己評価作成日	平成24年4月27日	評価結果市町村受理日	平成24年6月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年4回3施設合同(会社)で、オリエンテーションをしている。  
スタッフの異動があっても利用者さん達は懐かしそうにスタッフに笑顔を見せてくれる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170201263-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170201263-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年5月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄駅からバスで5分、バス停の直ぐ近くの交通アクセスが良い場所に位置している。元寿司店を改造した建物内部は和風の趣を残した落ち着いた空間で、リハビリにも活用できるようにあえて階段・段差のある造りにしている。地域との付き合いが盛んで、町内会行事への参加に加えて事業所主催のバーベキューや法人合同で行なう運動会など、地域の方々にも参加してもらっている。家族の訪問時に意見を良く聞き、内容を「面会」「家族連絡」の項目に分類して整理し運営に反映させている。家族アンケートも実施している。職員の意見を聞く仕組みが整っており、事業所単位で行うスタッフミーティングと、法人合同で行なう管理者・チーフ対象の会議が、定期的に開催され活発に意見交換している。利用者の馴染みの関係継続を支援するために友人・知人の訪問を歓迎している。また、個別の希望に応じて、馴染みの喫茶店でお茶を楽しんだり、スーパーでの買物を支援したりしている。災害対策にも熱心で、年2回、夜間対応と2か月に1回の昼間対応の避難訓練を行なっている。救急救命訓練も行ない、災害時の備品も用意されている。利用者が積極的に外出できるように、定期的な外出レクや、日常的な散歩や買い物など頻繁に出かけている。また、ドライブ、ショッピング、カラオケ教室など個別支援も行なっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、その人らしい生活を送れる様にスタッフが情報を共有し支援の工夫をしています。利用者が主体となった生活を送れる様にスタッフ全員で意見交換をし実践が行われています。	法人共通の基本理念と「私たちの四つの望み」をパンフレット、HP、共用空間に掲げており、事業所独自の目標も別途作成しているが、今年管理者が交代したことから、新たに目標を作成する予定である。理念の共有については、特に全職員で確認する仕組みはない。	理念について、全職員で共有化できるシステムの構築を期待したい。また、新たな事業所独自の目標を作成する予定とのことであり、その取り組みに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のイベントに参加させていただき交流させていただいている。地域との繋がり場の行事を含み、積極的に交流を広げている。	町内会行事の新年会、夏祭り、クリスマスパーティ、花植え、ゴミ拾いなどに参加している。また、事業所主催のバーベキューや法人合同で行なう運動会、絆の会にも町内会役員やボランティアなど地域の方々に参加してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議やイベントなどで、認知症の理解など話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、民生委員やボランティアの方や町内会、地域包括支援センターの方との意見交換をさせて頂いています。貴重な質問や意見など聞かせて頂いています。	2か月に1度運営推進会議を開催し、避難訓練や自己評価・外部評価などについて意見交換している。また、昨年の課題であった町内会役員の会議への参加や広報を通じた家族参加への呼びかけも実施している。議事録も全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者会議等参加したり、本部の担当者が市町村担当者と綿密に連絡をとる等、連携に努めている。	本部の役員が事業所の窓口担当で、毎月のように市の担当者を訪問し、分からないことがあれば電話で確認をとるなど、積極的に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員で話し合い、拘束しないケアに取り組んでいる。身体拘束についての外部研修にも積極的に参加し、内部研修にて報告し再度マニュアルの確認もしています。言葉での拘束もしないように注意をしています。	身体拘束マニュアルが整備され、内部研修のテーマの一部として実施しているが、身体拘束を主とした研修については今後の課題である。玄関は日中は施錠せず、センサーで人の出入りが分かるようになっていない。	全職員が、身体拘束の具体的内容の理解を更に深めることができる研修プログラムの実施を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われない様、スタッフ間の気づきや協力、日常生活の声掛けや対応に注意し防止に努めている。		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ、成年後見人制度を使うまでいたっていない利用者ばかりですが、必要があれば活用出来る様、支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明した後、書面にて契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族訪問時、行事など参加時、意見交換を行い反映させています。行事の参加により、他のご家族同士との意見交換を出来る場も設けています。	家族の訪問時に、管理者が中心となって意見を聞いている。話し合いの内容は「面会」「家族連絡」の項目に分類してパソコン管理し、意見を取り入れて空気清浄機の設置を行なっている。また、家族アンケートも実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフと意見や提案を月2回の会議やミーティングなどで報告しています。本社からの個別面談や電話連絡など、個人的な意見交換しやすい環境になっています。	事業所単位で行なうスタッフミーティングと、法人合同で行なう管理者・チーフ対象の会議が、それぞれ毎月2回行なわれ、活発に意見交換している。また、職員は日常的に、マネージャーを中心に管理者に意見を聞いてもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の置かれている生活環境や、個々の能力をよく把握した上で、雇用条件を決め、また労働意欲を向上させるような職場環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する機会を作り、研修参加する様にしていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に参加し、交流する様にしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族より、本人の状況の聞き取り及び、本人の要望を十分に踏まえた上で、認知に関わるメンタルケアに重点を置いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、ご相談には出来る限り対応をさせて頂ける様に話し合いの場を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要介護状態、本人の状態を踏まえた上で必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない部分はお手伝いし、可能と思われる部分ではご本人が楽しみながら出来る様にスタッフが配慮しています。また、利用者ご本人が進んで出来る役割を個々に持っていていただいています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフのケアでは補えない部分もあり、ご家族にも相談し一緒に関わって頂く様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	たまに知り合いの方も見えられるので、ゆっくりお話していただける様、支援させていただいている。また、お話以外にも一緒にレクリエーションに参加して頂いたりなど、来訪しやすい環境を作っています。	友人・知人が訪問の際は、お茶を提供して好みの場所でゆっくり話をしてもらっている。毎月のように訪問してくれる方もいる。また、個人の希望に応じて、馴染みの喫茶店でお茶を楽しんだり、スーパーでの買物を支援したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係も十分に把握し、尚且つスムーズに皆がお互いに関わり合っている様、その為の接点で有る事も踏まえて支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、状況把握の為、関係者との面会の機会を持ち、相談等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りの対応をさせて頂き、常にスタッフ全員、ミーティングにて対応している。	利用開始時に、家族や医療機関等の情報を収集してアセスメントシートを作成し、最長でも6か月毎に更新している。また、一人ひとりの表情や食事量、いつもと異なった行動などに留意し、思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	園芸、買い物、外食、外出等、自由に利用者のニーズに対応したサービス提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動、会話等でその日の状態を把握し、協力支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー、スタッフ全員でモニタリング、意見等を出し、常に介護方針が共有できるように話し合っている。	利用開始時に、暫定の介護計画を作成し、1か月を目途に本計画を作成している。その後は、短期3か月長期6か月を基本に介護計画を見直し、状況が変化した際には、3か月以内でも見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員で情報交換し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望、ご家族の状況等を把握した上で、外出、外泊の調整をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して、生活、行動が出来るようまた、地域との繋がりを持つ為にボランティアの協力を呼び掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科、内科等の提携医療機関が有り、定期往診や24時間対応を利用しての支援をしている。	協力医療機関の訪問診療が2週間に1度あり、協力歯科も随時訪問してくれるが、従来のかかりつけ医の受診は自由である。協力医療機関以外の受診は基本的に家族対応だが、必要に応じて事業所でも支援している。医療情報も適切に管理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、小さな事も伝え、スタッフ同士で決めず看護師及び、担当医等へ相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関からの話を良く聞き、引き続き支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人とご家族から希望を聞き、可能な限り支援している。	利用開始時に、利用者・家族に、「重度化した場合の対応に係わる指針」を示し「看取りに関する考え方」についても詳しく説明している。現在、看取りを行なったケースはまだない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者と一緒に年2回、消防署の協力のもと訓練を行い、2ヶ月に1回は自主訓練を行っています。運営推進会議を通して地域の方や消防署、地域消防団にも参加して頂き、意見交換や状況報告など協力もいただいています。	消防署の協力のもとに年2回、夜間対応の避難訓練を行ない、自主訓練で2か月に1回、昼間対応の訓練を行なっている。救急救命訓練も殆どの職員が受講し、災害時の備品も用意されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者へ言葉遣いや声のトーン、表情に気を付けスタッフ対応しています。個人の尊厳を重視して、変化を見過ごす事の無いようスタッフが協力しています。	利用者への呼びかけは「名字」或いは「名前」を「さん」付けで呼び、言葉遣いにも注意している。また、内部研修でプライバシーについて学び、利用者を尊重したケアを行なっている。記録などの個人情報パソコンで管理し、事務所で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の要望を聴きやすい環境を作っています。また、否定する事無く、傾聴し共感するようにスタッフ間同士の連携も図っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の時に化粧やマニキュアを支援したり、個々の嗜好に沿ったおしゃれをいつでも楽しんで出来る様にしています。		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別の嗜好を把握し、食事を楽しんで頂ける様に調理を工夫したり外食レクも行っています。盛り付けや配膳、味見、片付けなども楽しんで出来る様にスタッフが配慮し見守っています。	食材会社の献立に好みを入れてもらい、利用者の希望を受けてメニューを変更することもある。自由に参加できる外食レクを計画し、食事を楽しむ機会も作っている。職員は調理の下拵えや食事の準備、後片付けを一緒に行ない、利用者の能力を引き出すよう支援し、食事を共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量もチェックを行い、不足の場合はスタッフで話し合い工夫をして提供しています。その人の嗜好を重視して、摂取しやすい様な個別の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前、食後、声掛けで行い出来ない所は、スタッフが介助を行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフが諦めずに協力し、24時間排泄のチェックをしてデータを収集し声掛けのタイミング、動き、水分摂取量など細かく分析をしてトイレの使用をしています。	チェックの必要な利用者の排泄の特徴を記録し、個別に沿った対応をしている。排泄の自立に向けて衛生用品の工夫を重ね、トイレで排泄できるように支援している。動作を見て、それとなく声をかけて誘導を行ない、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック、水分摂取量や食事のすすみ具合、睡眠出来ていたかなど、またその人が出来る運動を心掛けています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんで頂ける様に、衣類を選んで頂いたり、希望のお湯の熱さや入浴剤の利用、その日の入りたい時間など個々に聴き可能な限りの要望に沿え気持ちよく入って頂ける様に声掛けしています。	入浴はいつでも可能であり、最低週2回のペースで入っている。曜日や時間を決めないで全員に声をかけ、対応が可能な限り希望に沿って入浴を実施している。利用者によっては、個別の企画で、年に数回、健康センターでの入浴を支援しているケースもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度や明るさを個別に調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ無い様に服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の対応をする様に心掛け、気分転換を行える様にしている。		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事で集団での外出もありますが、個別対応も重視しています。利用者が喜んで外気に触れる様に個別の嗜好に対応して、不安なく外出が出来る様にしています。	定期的な外出レクの日以外にも、近くにある公園の散歩や買い物などで頻繁に出かけている。季節の外出行事の他に、ドライブ、ショッピング、カラオケ教室に出かけるなど、個別支援も積極的に行なっている。冬季も映画鑑賞や大型ショッピングセンターでの買物など、毎月外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特に本人の意思を尊重し、希望に応じて対処しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿っていつでも出来る環境にしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	置物、ソファの配置等、くつろぎやすい演出を考慮しています。ガーデニング等も取り入れていきます。	元寿司店を改造した建物内部は、和風の趣を残した落ち着いた空間で、2階に7室があり、毎日の階段昇降は利用者のリハビリに役立っている。階段の手すりも安全性を考慮している。居間には利用者と一緒に作成した季節の貼り絵、写真が飾っており、盆栽、花などを置き、ゆったりと寛げる雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1F、2Fそれぞれソファ、イス等でくつろげる空間を工夫し気の合った利用者同士が過ごせるサロンになっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具及び寝具、ご家族の写真、仏壇等により、これまでの生活環境を維持出来る様、努めています。	居室には馴染みの大きめな家具類やテレビ、仏壇などが持ち込まれており、座椅子でゆったり過ごせる広々とした空間である。造花の装飾、置物、家族の写真などが飾っており、その人らしい居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の出来る事を大事にし、生きがいや役割りの持った日常生活が送れる様にしています。出来る事が出来なくなる様にスタッフ間も連携を取っています。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ライフケア北倶楽部

作成日：平成 24年 6月 7日

市町村受理日：平成 24年 6月 11日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念について、全職員が共有化できるシステムの構築と事業所独自の目標を作成する等の改善が必要。	職員全員が、会社理念や事業所目標を日々の仕事の中で実践し、また理解と共有することでケアに対する質の向上に繋げる。	会社理念については、年間研修の中で職員に浸透するように研修を行い、また事業所目標については毎年年度初めに、職員間で相談し決定する。	6ヶ月
2	6	全職員が、身体拘束の具体的な理解を更に深めること。	変化する身体拘束事例を検討し、定期的に職員間での共通意識を深める。	今までの年間研修計画では、身体拘束と高齢者虐待を合わせて研修を行っていましたが、身体拘束防止の重要性を再認識する為にも、個別の研修を行い、また、最新の知識を習得する為に、外部機関での研修の参加も検討する。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。